

【別紙様式】

課 題	作業道の安定度調査の一考察
発 表 者	独立行政法人 森林総合研究所 森林農地整備センター 久保田 拓也

水源林造成事業の森林は、育成段階から利用可能な段階を迎えているところであり、路網の整備と高性能林業機械の導入による生産性の向上が重要な課題となっている。

また、水源林造成地においては、これまで、間伐等の保育作業実施のため、作業道の整備を積極的に行っている。

特に、平成2年からは、急峻な地形において盛土部分に丸太組を用いることにより、伐開幅・切土高を抑制した壊れにくい路体を構築できる丸太組を導入した作業道整備を進めてきている。

そこで、平成21及び22年度に既設の新旧作業道において、路体の強度や丸太の腐朽状況を試行的に調査し、作業道の安定度を評価するとともに、既設作業道の維持管理及び作業道新設の施工管理のために必要となる路体・路面の支持力の基準値はどのように設定すべきか、また、どのような調査により評価することが望ましいかについての一考察を報告する。



簡易支持力測定器(キャスポル)による調査状況



木材測定器(ピロディン)による腐朽度測定